

平成30年度 第2回学校評議員会報告

- 1 日 時：平成31年2月20日（水）15：30～16：30
- 2 場 所：本校応接室
- 3 出席者：学校評議員5名、学校6名（校長、副校長、事務長、総務主任、総務担当） 計11名
- 4 次 第：（1）開会 （2）校長挨拶 （3）学校概況説明 （4）質疑応答 （5）閉会
- 5 内 容

【学校長挨拶】

日頃から本校の教育活動へのご協力、さらには本年度行われた創立70周年記念事業へのご協力に感謝申し上げます。地域とともにある学校づくりをテーマにし、社会や地域に貢献できる人材育成のために尽力していく。来年度、県では高等学校や、幼児教育におけるコミュニティースクール導入の検討をすることとしており、地域の声を学校経営に活かしていくことがこれまで以上に求められている。本日は、様々な観点から忌憚のない意見を賜りたい。

【学校概況説明】

副校長より口頭説明

【質疑応答】

- A氏：在籍生徒数減少に伴う、部活動の統廃合について考えを知りたい。コミュニティースクールの取り組みについて詳細を教えてください。
- 校長：部活動の統廃合は、大野中学校や本校職員と検討してきた。今後、現在活動している全ての部活動を維持していくことは厳しいと考えている。大野中学校と情報交換しながら来年度から部の統廃合を行っていく。コミュニティースクールは導入について来年度から検討することとしている。学校運営協議会が学校の方針や運営を審議し、承認する仕組みである。地域がさらに学校運営に関わる機会が増していく。
- B氏：今年度の進学状況において、4年制大学への合格は推薦入試によるものが多数であるか。
- 校長：推薦入試の他、一般入試での合格もある。
- C氏：在籍生徒数の減少が避けられない状況の中、大野中学校と大野高校は共通理解が図られていると思っている。小規模校の良さを前面に出していくことが必要である。例えば、学習指導においては個別対応ができることが良さだと思う。部活動の統廃合については、丁寧に保護者と話をしながら進めていかなければならない。大野高校は家庭事情、交通事情等により、大野地区から出られない生徒のためには地域にはなくてはならない学校である。
- D氏：創立70周年記念式典・記念事業では、生徒のあいさつや来賓への対応が素晴らしかった。PTA会報に掲載された「卒業生の言葉」に感銘を受けた。伝統ある大野高校卓球部部員数が大幅に減少していることが非常に残念である。
- E氏：高等学校職員にはどのような働き方改革がなされているのか。地域の福祉施設でのアルバイトは可能であるか。
- 校長：各学校で働き方改革アクションプランを公表している。学校毎にテーマを定めて取り組んでいる。アルバイトは可能であり、福祉に関心を持っている生徒もいるため、お願い申し上げたい。昨年度実施した地域との合同避難訓練の来年度実施を考えている。生徒主体で地域との行事を積極的に行いたい。
- A氏：高校再編について教えてください。
- 校長：教育の水準維持のためにも4～6学級が適切であるというのが基本。小規模校では学年20名を下回らないことが学校維持の条件である。来年度から、近隣高校と連携したインターネットを通じた授業や講演会の合同実施を試行予定。